

4

建築鉄骨ロボット溶接オペレータ教育委員会

4.1 概要

2007年改正WESにおいて「建築鉄骨ロボット溶接オペレータ資格」の受験条件の一つとなった「建築鉄骨ロボット溶接オペレータ特別教育」のため、2008年度に教育委員会内に「建築鉄骨ロボット溶接オペレータ教育委員会（委員長中山

繁）」が新設された。当委員会では、この特別教育の講習に使用する資料の検討、特別教育資料によるロボットメーカーの講師への対応、建築鉄骨ロボット溶接の安全に関する指針の啓発等を行なっている。

4.2 10年間の活動

4.2.1 建築鉄骨ロボット溶接オペレータ特別教育

建築鉄骨ロボット溶接オペレータ特別教育の実施実績数を表4.1に示す。「訓練または登録者の補助としてロボット溶接を100日以上行った経験のある者」については「建築鉄骨ロボット溶接オペレータ特別教育」の受講は免除されるため、新規受験者のすべてが受講している訳ではなく、新規認証取得件数に対する比率で見ると、十数%～30%を推移している。

2013年改正WESを受けて、基本級と専門級の同時受験を認める「建築鉄骨ロボット溶接オペレータ専門級特別教育」の内容について検討を行い、教育資料を整備した結果、2015年度より「専門級特別教育」の受講者が見られるようになった。

4.2.2 講習資料の改訂

2009年度に安全啓蒙のためのパワーポイント資料「建築鉄骨ロボット溶接における安全作業について」を作成した。また、2016年度には、建築鉄骨ロボット溶接オペレータ技術検定試験の講

習会において資格制度発足当初から使用しているビデオを再制作し、最新の諸データを反映し内容を刷新するとともに写真・図・表を多用し建築鉄骨製作の基礎的事項、オペレータの役割等を受講者がより理解しやすい内容とした。さらに、ビデオの内容との整合性を確保することを主目的として建築鉄骨ロボット溶接オペレータ技術検定試験の講習会テキストのパワーポイント資料を改訂した。これらは建築鉄骨ロボット溶接オペレータ技術検定試験の講習会に使用されている。

表 4.1 特別教育受講者数の推移（単位：人）

実施年度	特別教育	専門級特別教育	計
2009	26	—	26
2010	7	—	7
2011	8	—	8
2012	17	—	17
2013	16	—	16
2014	37	—	37
2015	4	42	46
2016	12	40	52
2017	24	45	69
2018*	11	11	22
累計	162	138	300

* 2018年度は10月までの人数

4.3 今後の展望

当委員会が設置されて10年が過ぎ、建築鉄骨ロボット溶接オペレータ特別教育ならびに建築鉄骨ロボット溶接オペレータ技術検定試験の講習会の講習テキスト類は改訂を経て一通り整備されてきた。今後、建築鉄骨の溶接部の品質確保に資す

るため、ロボット溶接オペレータとして備えておくべき知識や、より分かりやすい講習についてさらなる検討を進めること、また、多様化するロボット機種へのきめ細かい対応などを行い、溶接ロボットのさらなる普及への支援を行っていく。